

釧路市教育委員会 令和5年第14回7月定例会会議録

1 日時：令和5年7月20日（木）13時30分から15時00分まで

2 会場：釧路フィッシャーマンズワーフMOO 2階 教育委員会室

3 出席者

岡部義孝教育長

（教育委員）

山口隆委員、種村俊仁委員、小出美貴子委員、靱山彩子委員

（事務局）

齋藤学校教育部長、工藤生涯学習部長、本川教育指導参事、森学校教育部次長、大島総務課長、西崎施設計画主幹、小西教育政策主幹、齊藤総括指導主事、神谷給食担当主幹、及川北陽高校事務長、乙黒スポーツ課長、松本博物館長、鈴木動物園長、村木北陽高校校長

4 議事録署名人 山口委員 小出委員

5 傍聴人数 0人

6 提出案件

【公開案件】

議案第59号 令和6年度釧路北陽高等学校教科用図書採択について

報告事項

(1) 令和5年第3回釧路市議会6月定例会の議決結果について

(2) 令和5年第3回釧路市議会6月定例会の審議内容について

(3) 「小中一貫教育による新たな学校づくりセミナー ～義務教育学校の実践と9年間を通じた学びの可能性～」の開催について

(4) 算数・数学に関するアンケートの結果について

(5) 第6回タンチョウリーグ in くしろの開催について

(6) アイスホッケー交流戦 KUSHIRO TANCHOU-CUP2023 の開催について

(7) キャッシュレス決済端末の導入について

(8) 釧路市教育委員会の保管するアイヌ遺骨等の取扱方針の策定について

(9) チンパンジー「ユウコ」の死亡について

(10) 学校の現状について

7 会議内容

【公開案件】報告事項

議案第59号 令和6年度釧路北陽高等学校教科用図書採択について

(村木北陽高校校長)

議案第59号、令和6年度釧路北陽高等学校教科用図書採択について説明する。

はじめに「教科書の採択」とは、学校で使用する教科書を決定することである。教科書を採択する権限は、公立の高等学校においては、その学校を設置する市町村や都道府県の教育委員会にある。教育委員会に届け出る教科書の選定に当たっては、校内に教務部長及び各教科主任により構成された「教科書選定委員会」で検討し、教科書一覧表のとおり取りまとめている。

資料1枚目の中段以降は、文部科学省が発行する「高等学校用教科書目録」に記載されているものの中から、本校が選定した使用教科書一覧となっている。表の「新規」の欄に○若しくは◎が付されているが、○については、令和6年度が完成年度となる新高等学校学習指導要領への移行、又は単位制の完成年度に伴い新たに教育課程に設置された新科目である。◎については、前年度からの科目変更はないものの、生徒の実態等に即して新しく教科書を選定したものである。採択理由については、1「内容の取扱いについて」、2「単元の構成、配列及び分量について」、3「その他」となっており、それぞれ(1)から(3)に示した観点を記載している。教科書一覧の右端には、各教科書の選定理由についてそれぞれの観点に最も合致している項目を記載している。

なお、教科書が採択された後は教科書の発注となる。7月末に教科書需要数を報告することになっているが、高等学校の場合は生徒の進路変更や選択科目の変更等が見込まれることから、例年11月頃に最終的な需要数の報告をすることになっている。

◎特に意見はなく、本議案は、原案のとおり承認された。

【公開案件】報告事項

- (1) 令和5年度第3回釧路市議会6月定例会の議決結果について
- (2) 令和5年第3回釧路市議会6月定例会の審議内容について

(大島総務課長)

令和5年度第3回釧路市議会6月定例会の議決結果について報告する。

先々月の教育委員会において承認いただいた2件の補正予算案、及び釧路市学校給食センターと釧路アイスアリーナに関する「工事請負契約の締結に関する件」の議案については、すべて原案どおり可決されたことを報告する。

また先月の教育委員会において承認いただいた報告第4号の著作物の無断使用に係る「専

決処分報告の件」について、報告承認を得ていることを報告する。

その他に、陳情第7号の「給食を一部停止している家庭に対する給食費返還ルールに関する件」については、不採択となっている。

(齋藤学校教育部長)

学校教育部に関する令和5年第3回釧路市議会6月定例会の審議内容について報告する。

日本共産党議員団、小山議員から釧路東部地域の在り方についての質問があった。内容は文化、運動の拠点施設として小学校を使用することは可能か見解を示してほしいというものである。これに対して、学校運営に支障のない時間帯において、学校の体育館を地域住民のスポーツ活動やコミュニケーションの場として開放しており、同地域においても小学校9校、中学校4校を利用可能としているとお答えした。

創志会、藤井議員からは公共トイレについての質問があった。内容は市立小中学校における水洗トイレ及び洋式トイレの普及率について示して欲しいというものである。これに対して、トイレは100%水洗化されており、洋式化率は令和5年3月末時点で67.6%であることを伝え、洋式化改修を逐次進めているところであり、令和6年3月末のトイレ洋式化率は76.0%となる見込みであるとお答えした。

市民連合議員団、板谷議員から投票率向上に向けての取組の質問のうち、山形県遊佐町「少年議会」に関する質問があった。内容は釧路市としての道徳教育の在り方、選挙や投票と関連性を持たせる今後の取組について見解を聞きたいというものである。これに対して、これまでも社会科を中心として、選挙に関する正しい知識を身に付けることはもとより、選挙管理委員会による出前授業など、選挙を身近に感じる学習を展開してきたところであり、今後についても、選挙の重要性について児童生徒に周知していきたいとお答えした。

自民市政クラブ、石割議員から市立小中学校への防災用ヘルメットの配備についての質問があった。内容は市内の国立義務教育学校では防災ヘルメットや防災頭巾が用意されているが、市立の小中学校でのヘルメットの配備を検討すべきと考えるがどう考えているかといったものである。これに対して、市内の小中学校において地震が発生した際には、自分の頭部や体を守るよう、児童生徒への指導を徹底しているところであり、防災ヘルメットの装着は頭部を保護する有効な手段の一つであると認識しているが、耐用年数が3年から5年と短く、更新費用も5,000万円程度であることから、全児童への一斉配備は難しいとお答えした。

創志会、五十嵐議員から今年度の給食費等支援事業に関連して、食物アレルギーで給食を食べられない児童生徒への対応についての質問があった。内容は食物アレルギー対応をしている児童生徒の人数及び今後の対応について示して欲しいというものである。これに対して、給食の提供を受ける人数は合計9,476人となっており、このうちアレルギー対応をしている人数は184人となっている。今後の対応は、令和5年度の中での対応は予定していないが、新給食センターにおいて令和8年度から牛乳、卵など主要なアレルゲンを除去した除去食の提供を行う予定であり、除去食専用のランチジャーを対象者にそれぞれ準備することで、通常の給食との区別を明確にし、誤配や誤食の防止に努めていくとお答えした。

日本共産党議員団、梅津議員からの質問では、大館市の「おおだて型授業」を見学してき

たところ、大館市の中学校では教職員は午後8時には退勤し、授業の準備時間を確保する体制とのことであったが、釧路市ではどう確保しているのか、またどのような対策を考えているのかという質問があった。これに対して、授業準備時間の確保については教職員の働き方改革を進めていく上で重要なものと認識している。行事の簡略化や厳選、ICTを活用した情報共有や会議時間の短縮、「新しい学びのかたち推進チーム」が作成した教材の使用などにより改善を進めてきている。今年度においては、統合型校務支援システムを全ての小・中学校に導入して情報のデータベース化を行い、指導要録や通知表、児童生徒の出欠管理について相互に情報を利用可能とすることで、業務負担の軽減を図っていく。さらに生徒数の多い一部の中学校においてはデジタル採点システムを試験導入し、採点業務の効率化を図っていきたいとお答えした。

また中学生の保護者より連絡があり、定期試験前に各教科の目標とする点数、学年順位、学級順位の目標を立てさせているということであるが、共感的、協働的な学び合いとの整合性についてどのように考えているのかという質問があった。これに対して、学校が主導する形で、学年順位、学級順位の目標を一律に立てさせることは不適切であるものと考えことから、当該学校を適切に指導していきたい。釧路市についてもクラス全員が多様性を認め合い、助け合うことを通して、子どもたちが主役の学ぶ意味と楽しさを感じられる授業を目指していきたいとお答えした。

(工藤生涯学習部長)

生涯学習部に関する令和5年第3回釧路市議会6月定例会の審議内容について報告する。

日本共産党議員団、小山議員より、太陽光発電に伴うキタサンショウウオの保護について質問があった。これに対して、釧路湿原の乾燥化や開発行為の進展等を踏まえ、平成3年からキタサンショウウオの生息状況調査を実施し、この調査結果をもとに令和2年には市内全域の「生息適地マップ」を作成し、キタサンショウウオの保全に取り組んできたことと、今後も調査区域の拡充も検討するなど、キタサンショウウオの生息状況調査にしっかりと取り組み、その保全に努めてまいりたいとお答えした。

創志会、藤井議員より、釧路湿原マラソンのコース変更等に関して質問があった。これに対して、釧路湿原マラソンの10キロメートルのコースについては地域住民より交通に支障があると、警察等に多くの苦情が寄せられ、主催団体でもある釧路地方陸上競技協会とも協議の上、安全確保や大会運営に支障がないことを確認し、変更に至ったと実行委員会の中で報告があったことと、コースの再検討については、参加者にアンケートを実施する予定であり、その結果を踏まえて改めて実行委員会で検討していくとお答えした。

公明党議員団、河合議員より、読書通帳機の導入について質問があった。これに対して、全国の図書館や学校図書館で「読書通帳」が活用されているが、釧路市でも小中学校15校では同様の取り組みが行われており、中央図書館では利用者のページを通じて本の予約や貸出記録ができる読書通帳と同様の機能もあり活用されている。引き続き読書へのきっかけづくりや、図書館の利用を増やす取り組みを検討する中で、「読書通帳」の事例を参考にしながら、図書館利用と読書活動の推進に取り組んでまいりたいとお答えした。

◎この報告について、各委員からの発言はなし。

【公開案件】 報告事項

(3) 「小中一貫教育による新たな学校づくりセミナー ～義務教育学校の実践と9年間を通じた学びの可能性～」の開催について

(小西教育政策主幹)

報告事項3、「小中一貫教育による新たな学校づくりセミナー ～義務教育学校の実践と9年間を通じた学びの可能性～」の開催について報告する。

本市では令和4年12月に釧路市が目指す学校のすがた基本計画を策定し、大楽毛、音別はじめ、計6校の義務教育学校を開校することとしている。その中で、本セミナーは北海道教育大学釧路校からの後援を受け、平成28年度より新たな学校種として位置づけられ全国で開設が進んでいる義務教育学校についての理解・周知を図るほか、義務教育学校が有する新しいカリキュラムや活動の可能性について実践例等をもとに模索することを目的として開催するものである。

内容については、基調講演として、文部科学省初等中等教育局初等中等教育企画課 教育制度改革室 室長の前田幸宣様をお呼びし、全国的な義務教育学校の動向とその効果も踏まえた内容でご講演いただく。その後、実践報告という形で、阿寒湖義務教育学校の事例を本川教育指導参事、北海道教育大学附属釧路義務教育学校の事例を副学長の月大さゆり様、また、帯広市立大空学園義務教育学校の事例を校長の村松正仁様に報告いただき、ファシリテーターとして教育大学釧路校のキャンパス長である浅利祐一様、コメンテーターを前田室長様として、意見交換を行う予定である。なお、本セミナーは参加無料で、誰でも参加可能としている。

本セミナーの周知については、広報くしろ8月号の紙面にて行うほか、市ホームページ、釧路市公式 LINE、市立小中学校・義務教育学校へも依頼を行い、コミスク関係者、保護者にも周知していただくほか、義務教育学校開校準備協議会の委員、市P連や連合町内会、未就学児の関係者、学校のあり方検討委員会の委員などへも案内を行う予定である。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり

(山口委員)

多目的ホールでの参加人数を200名程度と想定しているが、幅広く周知し、どの程度参加予定であるか確認はとれているのか。

(小西教育政策主幹)

事前の参加申し込みはせず、できるだけ参加しやすい形を考えている。200名と言うのは推測値である。

(山口委員)

ある程度の人数を掌握していた方が会場設営等の運営は行いやすい。私たちも参加したいと思っている。

【公開案件】

(4) 算数・数学に関するアンケートの結果について

(齊藤総括指導主事)

報告事項4、算数・数学に関するアンケートの結果について報告する。

本アンケートは、令和5年5月に、小学校3年生以上の全児童生徒と、これら児童生徒に算数・数学を指導している全教員を対象に実施したものである。調査回答者数は、児童生徒6,631名、教員243名となった。

本アンケートは、今年度より重点として進めている「釧路市が目指す授業」の実現を図るために、特に釧路市の課題となっている算数・数学を担当する教員全員にアンケートを行い、算数・数学の授業をする際に難しさを感じていることなどについて、釧路市の教員の現状を的確に把握し、算数・数学の授業改善につながる具体的な改善方法について示すことを目的に実施した。さらに、これまで行ってきた各種調査の児童生徒質問紙に加え、小学校3年生以上の児童生徒に対して、年度始めの時期と、今後、冬に予定している2回目のアンケート結果を比較することで、児童生徒の実態を基にした授業改善の定着を図ることをねらいとして実施した。

本アンケートの調査結果から、次のような傾向が見られた。本アンケートのすべての設問において、小学校では4年生までは肯定的な回答が多く、5年生になると肯定的な回答が減少する。同じく中学校では1年生は肯定的な回答が多く、2年生になると肯定的な回答が減少するという状況が判明した。このことから、算数や数学においては小4と小5の間にギャップが生じていること、同じく中1と中2の間にギャップが生じていることから、この部分に着目した授業改善の手立てを示す必要があると判明した。

また教員のアンケートでは、「話合いでどのように学習内容を深めればよいのか」「どのように『振り返り』を位置付けて『まとめ』につなげればよいのか」「ICTをどのように活用したらよいのか」という質問項目で、どの採用年数の教員でも課題に感じていることがわかった。今後はさらに詳細に分析を行い、明らかとなった課題を解決するために、算数数学の授業づくり短編動画の提供や、授業づくりに向けて指導主事がサポートするなど、様々な具体的方策を検討していきたい。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり

(種村委員)

小学校5年生と中学校2年生は算数・数学に対して苦手意識を持っている。小学校5年生

は中学校に入学する2年前で、大事な学習を行う学年となる。また中学校2年生は単元が多く、とても重要な学年であり、この学年で苦手意識を持つとかなり良くない考える。

(齊藤総括指導主事)

小学校5年生までは基本である数と計算領域を中心とした授業を展開しており、小学校5年生からは数量関係など、数と計算領域を使いながら、様々な問題を解く授業が増えてくる。そこでギャップが大きくなっていくこともわかっている。また中学校2年生については、最初の導入時期で証明問題がたくさん出てくるため、証明問題に対する苦手意識がアンケートに反映されていると思われる。改善策については、短編授業動画や子どもたちが分かりやすく楽しめる授業づくりなど、環境整備をしていきたいと考えている。

(靱山委員)

このアンケートを実施すると聞いたとき、子どもたちのために授業改善に取り組まれているということで、本当に嬉しく思っている。教育長からお話があったように教員の困りごとや要望が具体的に記載されており、改善の兆しが見えて成果が生まれそうだと思っていた。教員の回答の中で、例えば何について知りたいという回答があった場合、今後、その回答についてどのように進めていくのか、想定している範囲で回答いただきたい。

(齊藤総括指導主事)

共通としてあげられている部分では、話し合いでどのような学習内容を深めていけばよいのか、振り返りの位置づけや、まとめはどのようにやっていけばよいのか。この課題についてはどの年代でも難しいと感じているため、まずは全世代において問題だと感じている部分について、短編動画や資料を提供しながら、教員をサポートしていきたいと考えている。

(靱山委員)

一人の教員しか回答していない内容であったとしても、その内容を見たときに自分も同じ考えだと思ふ教員がいると思う。逆に回答に対して工夫している点や答えを持っている教員がいると思う。難しい資料を作ってしまうと教員のさらなる負担になるため、ICTを活用し、お互いに疑問を回答しあえるとよいかと思う。

(齊藤総括指導主事)

すでに授業交流サイトが作られている。教員が自由に発言し、データを共有する場が設けられている。タブレット端末を使って入り、悩みや質問を書き込めば、それに対して教員が回答するといった環境は整備している。しかし、実際にそれを充実させるのは教員自身であるため、学校訪問など色々な機会を通して今後周知していきたい。

(靱山委員)

特にその場では、このような相談等はあまり出ないのか。

(齊藤総括指導主事)

すでに出てきているところもある。それに対して指導主事が回答したり、アイデアを出し合ったりする場面も見受けられるため、全ての教員に周知して、活用できる環境を整えたいと考えている。

(山口委員)

子どもたちも教員も非常にアンケートに対して協力的だったという話を聞いたが、原因が明らかになっている部分が先ほどの説明の中にあった。アンケートに協力した結果、自分たちに還元され、自分の授業づくりに反映できたという、フィードバックの部分を、今後教員が実感できるものを与えていただければと思う。

(小出委員)

算数・数学を担当する教員に行ったアンケートということで、色々な意見が出ていると思う。授業を色々と見た中で、指導の仕方は共有されていると思うが、算数・数学に対しての色々な課題や意見が出たということで、算数・数学を教えている教員だけではなく、ほかの教員にも課題を共有し、解決に学校全体として向かう姿勢ができれば良いと思う。

(齊藤総括指導主事)

小学校については全学年算数を持つため、クラスルーム等で発信されている情報をキャッチできることはすごく大切である。中学校は専門性が高いため、最低限中学校の数学の教員はクラスルーム、交流サイトを活用できるような仕組みづくりを進めていきたいと思っている。

(岡部教育長)

大館市では、すでに教科を超えて学校の中での授業見学が行われているため、これは進めていくべきだと思っている。また、昨日で全ての小中学校及び義務教育学校の学校訪問を終えたが、同じ学校の同じ教科でも教え方が異なる学校もあるが、同じ教科で同じ教え方の学校も見受けられた。つまり後者の学校は、日々、教員が空いた時間にほかの教員の授業を見ている。或いは同じ教科同士で色々授業について話をしていると思われる。逆に言うと統一されていない学校は、何も行っていないことがわかる。異なる教科どころではなく、おそらく同じ教科でも、学校の中で話し合いがなされていない。どちらかというそのような学校が多かった。良い授業をしている教員もいるが、同じ教科で同じ学校の教員の授業を、参考にしてない教員がかなりいるため、学ぶべき事例対象は身近にあるということも言って欲しい。

【公開案件】

(5) 第6回タンチョウリーグ in くしろの開催について

(乙黒スポーツ課長)

報告事項5、第6回タンチョウリーグ in くしろの開催について報告する。

今年の開催日程は8月8日から18日までとなっている。今大会については、タンチョウリーグ運営の中心であった亜細亜大学硬式野球部による釧路キャンプが中止となり、リーグの開催が危ぶまれたが、引き続き試合調整等を行っていただけることとなり、亜細亜大学を除く全10チームでの開催が決定した。参加チームには、福岡ソフトバンクホークス3軍やホンダ、日本体育大学など、日本屈指の強豪チームが名を連ねており、ウインドヒルひがし

北海道スタジアムにて試合が行われる。試合日程については、資料に日程表がある。

「タンチョウリーグ」については、平成29年に釧路市民球場の大規模改修工事が完了したことを機に、亜細亜大学硬式野球部が中心となって開催されており、社会人チーム、道内外の大学チームに加え、プロ野球チームも参加するオープン戦として注目を集めている。期間中は、入場料を無料とする有観客の対応を予定しており、多くの市民や子どもたちにレベルの高いプレーをご覧いただけることを願っている。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり

(山口委員)

今まで参加していた亜細亜大学が今年は参加できないということであるが、来年度以降はまた参加する見通しはあるのか。

(乙黒スポーツ課長)

今回は秋季リーグの開催が早まったことで参加できなくなったが、来年以降はリーグの開催期間によるが可能性はある。

【公開案件】

(6) アイスホッケー交流戦 KUSHIRO TANCHOU-CUP2023 の開催について

(乙黒スポーツ課長)

報告事項6、アイスホッケー交流戦 KUSHIRO TANCHOU-CUP2023 の開催について報告する。

例年、夏の風物詩として野球のオープン戦「タンチョウリーグ」に加え、この度は氷都くしろを代表するスポーツであるアイスホッケーにおいても、「タンチョウ」の名を冠した交流戦が開催される運びとなった。

開催期間は8月14日から17日となる。「くしろタンチョウカップ」には、強豪大学4チームが参加予定となっており、会場は釧路アイスアリーナとなる。この交流戦は、アイスホッケーの競技発展と人材育成を目的とする「くしろピエルマキプロジェクト実行委員会」が事業の一環として開催するものであり、今回が初開催となる。交流戦の前には参加チームによる合宿が行われ、その成果を発揮する場として交流戦を開催することにより、釧路市がアイスホッケーの合宿拠点となることを目的としている。また、交流戦以外にも、参加チームによる小学生を対象としたアイスホッケー教室や、父兄を対象とした大学への進路説明会が開催される。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり

(山口委員)

4チームの交流戦にプロチームが参加するのは難しいと思うが、前段の合宿にワイルズ所属の選手が関われるような場面設定を考えていくことは、大学にとってもワイルズの選手たちにとってもよいと思う。

(乙黒スポーツ課長)

各大学の出身選手は大学の練習に参加することはあると思うが、ここにワイルズを入れてしまうと、色々な注目を浴びて大学側が集中できない状況になることも考えられるため、今回は参加しないこととした。

【公開案件】

(7) キャッシュレス決済端末の導入について

(乙黒スポーツ課長)

報告事項7、キャッシュレス決済端末の導入について報告する。

動物園及びスポーツ課所管施設の一部においては、すでにキャッシュレス決済を導入していたが、このたび、生涯学習部全体で統一し、より安価で豊富なブランドを取り扱うことができる端末を導入する運びとなった。新たな端末を導入することにより、さらなる利用者の利便性向上や業務の大幅な省略化につながることを期待されている。なお、参考として、各施設におけるキャッシュレス決済の利用開始日を記載しており、7月12日の博物館を皮切りに各施設で順次利用開始となる。

導入する端末としては、有線型の「ステラターミナル」及び無線型の「ステラモバイル」となる。取り扱いブランドとしては、両端末とも「クレジット」や「電子マネー」、「QR」など、複数の決済手段に対応しているが、「QR決済」については8月以降に利用開始予定となっている。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり

(岡部教育長)

利用開始日は統一できないのか。

(乙黒スポーツ課長)

各施設で準備が整ったところから開始することになっているため、開始日が異なっている。

【公開案件】

(8) 釧路市教育委員会の保管するアイヌ遺骨等の取扱方針の策定について

(松本博物館長)

報告事項8、釧路市教育委員会の保管するアイヌ遺骨等の取扱方針の策定について報告す

る。

本年2月に開催された釧路市教育委員会2月定例会で報告した、アイヌ遺骨等の取扱方針に対するパブリックコメントについて、4月26日（水）から6月27日（火）までの2か月間実施したところ、意見はなかった。本案件は、釧路市民意見提出手続条例に基づくパブリックコメントではなく、北海道の取り扱いに準じて実施しているものであり、パブリックコメントでの意見も無かったことから、令和5年7月5日付で教育委員会の議決を得ることなく、原案通り策定し、同日、釧路市立博物館ホームページに公表した。取扱方針等の報告については、令和5年7月に釧路アイヌ協会、阿寒アイヌ協会への説明、報告を行うほか、順次、釧路市議会総務文教常任委員会、釧路市文化財保護審議会において、報告していく。

今後のスケジュールについては、策定した取扱方針に基づき、令和5年10月27日までアイヌ遺骨等の情報の公表、令和5年7月5日から令和6年1月5日まで返還申請書の受付を行うこととしており、この間、申請があった場合は、申請者が地域返還対象団体として適切かどうかを確認し、返還申請に対する反対意見の受付を、随時、行うこととなる。

反対意見の受付は、申請者が地域返還対象団体として適切であるとの公表をしてから3か月を経過した日、またはアイヌ遺骨等の情報を公表した日から6か月を経過した日のいずれか遅い日までとなっていることから、申請書の受付が期限の日にあった場合は、令和6年4月に反対意見の受付が終了し、5月に返還先が決定し、返還手続を開始することとなる。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり

（山口委員）

阿寒と春採に該当しないものについては、引き続き博物館の埋蔵文化センターカウポイの関連施設に収めるということか。

（松本博物館長）

対象となっている遺骨等について返還の申請がなされなかった場合には、博物館で保存するかウポイにて納骨していただくことになった。

（山口委員）

意向としては博物館にそのまま置く可能性が大きいのか、ウポイの方に納骨する可能性が大きいのか、どちらか。

（松本博物館長）

現状においては、各地域の団体で受けていただく方向で動いているため、その点については今後協議をしながら進めていくこととしている。

【公開案件】

（9）チンパンジー「ユウコ」の死亡について

（鈴木動物園長）

報告事項9、チンパンジー「ユウコ」の死亡について報告する。

「ユウコ」は千葉県にあった遊園地「谷津遊園」で1973年（昭和48年）7月に生まれた49歳のメスで、1983年（昭和58年）5月に、当時9歳で来園した。ユウコは、2001年9月にエキノコックス症の陽性が確認されたことから定期的な投薬を行い、症状を抑えながら過ごしていた中、先月6月中旬から食欲が低下し、6月27日に腹部に強い痛みが見られ、食欲もなくなり、痛みを和らげるための処置を行っていたが、7月1日朝に死亡を確認した。解剖の結果、死因はエキノコックス症及び心不全と考えられる。

「ユウコ」は、1982年（昭和57年）に類人猿舎をオープンした際に導入した個体で、ほかのチンパンジーとも仲良く過ごすなど、気の優しいメスであった。40年という長い間、お客様に親しまれてきた個体であるため、今回の件については非常に残念に思っているところである。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり

（山口委員）

オランウータンに続いてチンパンジーということで、非常に残念に思う。1982年に類人猿舎が完成し、チンパンジー3頭、ゴリラ2頭、オランウータン2頭の合計7頭を導入しているが、当時の7頭のうち存命しているのは何頭いるのか。

（鈴木動物園長）

途中、転園した動物もいるが、全て死亡している。

（山口委員）

現在、類人猿舎には何頭の動物がいるのか。

（鈴木動物園長）

チンパンジー5頭、シロテテナガザル2頭、オランウータンが2頭である。

（山口委員）

釧路市動物園で生まれた個体も含まれているのか。

（鈴木動物園長）

含まれている。

【公開案件】

（10）学校の現状について

（本川教育指導参事）

学校の現状について「信頼」に基づいて報告する。

5月の連休明けから始まった1次訪問は、7月4日をもって全学校の訪問を終了した。また、同時進行で行われていた教育長訪問も7月19日に全学校の訪問を終了した。全校一丸となって授業改善に取組み改善の兆しが見られる学校、なかなか進捗が厳しい学校、研修理

論と授業が乖離しすぎている学校等々、様々であったが、全学校で「釧路市が目指す授業の姿」を意識して取り組んでいることや、小中ジョイントというキーワードが使われていることは確認できた。今後は実効性が目に見えてわかるように、目的でもある子どもたちの学力向上、「生きる力」を育むことにつながるように、今後とも各学校に適宜指導しながら取り組んでいく。

大館市の授業マイスターを招聘し、釧路市の学校で示範授業をしていただく計画の日程が決定した。今回は大館市の授業マイスターである、小学校教師、中学校教師各1名ずつの2名をお招きする。10月3日火曜日にそれぞれ示範授業を実施していただくが、会場校については芦野小学校、鳥取中学校を中心に調整を進めている。詳細の決定次第、教育委員の皆様にも改めてご案内させていただく。また、10月4日には小学校、中学校のマイスターにそれぞれ別の学校を視察していただき、その後、釧路市のマイスターとパネルディスカッションのような形で授業改善に向けた意見交換を考えている。今回は教育研究センターの研修講座に位置付けているが、より多くの教員に授業を参観してもらうため、示範授業とシンポジウムの様子は後日オンデマンド方式で配信し、広く周知する予定である。

市教委の研究指定団体となっている3校の公開研究会の日程も、信頼に記載の通り決定した。特に幣舞中学校と鳥取西中学校は昨年度の2月頃から研修部が密に連携を取り合い、釧路市が目指す授業の姿を軸に授業づくりを進めている。また、ともに研究紀要は作成せず、これまでの授業実践をQRコードで視聴可能にするなど従来の公開研究会とは少し違った形の研究会を企画している。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり

(山口委員)

大館市のマイスターの招聘授業にご案内いただけるということで、日程調整ができればぜひ参加したい。もしリアルタイムで芦野小学校と鳥取中学校の授業に行ってみたいという教員がいる場合、見に行くことは可能であるのか。

(本川教育指導参事)

研究センターの研修講座としてすでに申し込みが多数来ており、その教員はそれぞれの会場で見ることが可能である。また、学校が空けられない等の事情で行くことのできない教員のために、録画したものを後日配信する形で検討している。なお、教育委員の皆様には後程ご案内させていただくが、小学校、中学校のいずれも10月3日の5時間目、13時半ごろを予定している。